

ぶどう（大粒種）（露地、雨よけ）

巨峰	発芽	展葉	開花始	満開	落花	収穫盛
	4.26	5.1	6.5	6.9	6.15	9.8

園芸試験場平年値

散布時期	適用病害虫名	散布薬剤名及び散布濃度 (薬液100ℓ当たり)		農薬使用基準		10a当たり 散布量	注意事項 (収穫前日数 総使用回数) を表す	散布日 (月/日)	使用薬剤	使用濃度
				収穫前 使用時期	総使用 回数					
3月下旬 (休眠期)	黒とう病 晩腐病 (ブドウトラカミキリ)	1. デランフロアブル	200倍(500cc)	休眠期	1回	300ℓ	1. 休眠期の防除は、必ず粗皮削りをしてから枝の先まで洗うようにていねいに散布する。 2. 前年の房の取り残し部分及び巻きひげなどの除去は晩腐病防除に重要であるから徹底する。 3. 前年ブドウトラカミキリの秋散布を実施しない園では、この時期ラビキラー乳剤300倍(発芽前(休眠期)、2回以内)を加用する。また、周辺の訪花昆虫保護のため3月下旬までに散布を終えること。	/		
4月中旬 (発芽前)	ハダニ類 サビダニ類	1. 石灰硫黄合剤	20倍(5ℓ)	発芽前	-	300ℓ	1. 他樹種に飛散させない。	/		
5月上旬 (展葉2~3枚)	黒とう病 べと病 晩腐病 褐斑病	1. ホライズンドライフロアブル 2. ジマンダイセン水和剤	2,500倍(40g) 1,000倍(100g)	21日前まで 45日前まで	3回以内 2回以内	200ℓ	1. ホライズンDFは小豆大以降は散布しない。又、他樹種に飛散させない。	/		
この回以降の散布は殺虫剤解禁後とする										
5月下旬	べと病 フタテンヒメヨコバイ チャノキイロアザミウマ	1. リドミルゴールドMZ 2. アグロスリン水和剤*1	1,000倍(100g) 1,000倍(100g)	45日前まで 7日前まで	2回以内 5回以内	200ℓ	1. リドミルゴールドMZは他樹種に飛散させない。	/		
状況	クビアカスカシバ	1. パダンSG水溶剤	1,500倍(66.6g)	21日前まで	5回以内	200ℓ	1. 散布は樹幹散布とし、他の樹種に飛散させない。 なお、ぶどうは大粒種しか登録がない。	/		
6月上旬 (開花直前)	黒とう病 灰色かび病 うどんこ病 べと病 ハダニ類	1. ランマンフロアブル 2. オンリーワンフロアブル 3. ダニコングフロアブル	2,000倍(50cc) 2,000倍(50cc) 2,000倍(50cc)	14日前まで 前日まで 前日まで	3回以内 3回以内 1回	300ℓ	1. コウモリガの発生が見られる園では樹幹周辺を清掃し、捕殺する。 2. 着粒不良の恐れがあるので、満開期の散布は避ける。 3. ランマンフロアブルは果樹ではぶどう以外に飛散させない。	/		
6月中旬~下旬 (落花直後)	黒とう病 褐斑病 さび病 灰色かび病 べと病 フタテンヒメヨコバイ アザミウマ類 ハダニ類	1. パレード15フロアブル 2. ベトファイター顆粒水和剤 3. アーデントフロアブル	2,000倍(50cc) 2,000倍(50g) 2,000倍(50cc)	7日前まで 30日前まで 前日まで	2回以内 3回以内 4回以内	300ℓ	1. 前年晩腐病の発生が見られた園では、本剤散布後直ちに笠掛をする。 2. 果粉溶脱防止のため、大きさが小豆大までとする。又、浸透性のある展着剤は使用しない。 3. ベトファイター顆粒水和剤は果樹ではぶどう以外に飛散させない。	/		
状況 6月下~ 7月上旬	べと病	1. ランマンフロアブル	2,000倍(50cc)	14日前まで	3回以内	300ℓ	1. 降雨が続く場合散布する。 2. ランマンフロアブルは他樹種に飛散させない。	/		
7月上~中旬 (袋かけ前)	アザミウマ 重点防除 褐斑病 晩腐病 灰色かび病 黒とう病 うどんこ病 さび病 アザミウマ類 フタテンヒメヨコバイ カイガラムシ類 (ハダニ類)	1. オンリーワンフロアブル 2. モスピラン顆粒水溶剤	2,000倍(50cc) 2,000倍(50g)	前日まで 14日前まで	3回以内 3回以内	250ℓ	1. ハダニの発生がみられる園ではコロマイト水和剤2,000倍(7日前まで、2回以内)を単用散布する。	/		
7月下旬 (袋かけ直後)	べと病 晩腐病 褐斑病 チャノキイロアザミウマ フタテンヒメヨコバイ コガネムシ類	1. ストロビードライフロアブル 2. ダントツ水溶剤	2,000倍(50g) 2,000倍(50g)	14日前まで 前日まで	3回以内 3回以内	250ℓ	1. この回以降デラウェアなどに飛散しないように 特に注意 する。 2. ストロビードライフロアブルは、おうとうやロザリオピアンコに薬害を生じる恐れがある。また、落花20日以降の散布は、果粉溶脱や汚れを生じる場合があるので注意する。浸透性を高める効果のある展着剤を加用すると薬害の恐れがあるので加用しない。 3. コガネムシ類の発生の多い園ではアディオオン水和剤*1 2,000倍(7日前まで、5回以内)を単用散布する。(袋かけ後)	/		
8月中旬	べと病 さび病 コガネムシ類 チャノキイロアザミウマ	1. ICボルドー-66D 2. アディオオン水和剤*1	50倍(2kg) 2,000倍(50g)	- 7日前まで	- 5回以内	250ℓ	1. 他樹種へ飛散させない。	/		
収穫後	べと病 さび病	1. ICボルドー-66D	50倍(2kg)	-	-	250ℓ		/		
11月中旬	ブドウトラカミキリ	1. ラビキラー乳剤	300倍(333cc)	発芽前(休眠期)	2回以内	300ℓ	1. 幼虫期をねらって結果枝に十分散布する。隣接して収穫前のりんごがある園では、りんごの収穫後に散布する。	/		

収穫前使用時期で「前日」とは24時間前である。

※使用時期や有効成分によって、使用回数が異なる場合は総使用回数欄を()で示した。

ハウスや雨よけ栽培では暦日でなく生育に合わせて散布する。

農業登録上の大粒種とは、デラウェア、やまぶどう以外の品種をさす。

※1 合成ピレスロイド剤は蚕毒・魚毒が強いので、桑園・養魚池、河川などの近くでは絶対に使用しない。